

キュウリ



夏の食卓によく見かける青々としたキュウリ。
夏に不足しがちな水分の補給や利尿作用に効果があります。

作型

育苗と直まきを組み合わせると長期間収穫できる。接ぎ木苗は土壤病害の心配が少ない。夏場の土壤乾燥を防ぐ。肥切れさせないこと。

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	品 種 名
春 植 え			○	△	■	■	■	■	■	■	■	■	北進、夏すずみ、鈴成四葉、新北進

○：種まき △：植え付け ■：収穫

畑の準備・定植

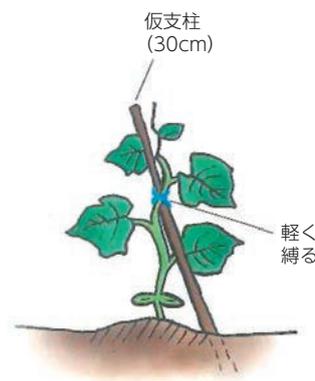
土づくり a当たり	
堆肥	400kg
セルカ(有機石灰)	10kg
植え付け1ヶ月前に土とよく混合	
元肥 a当たり	
野菜専用肥料	10kg
醗酵鶏糞	30kg
畝立時施用	



植え穴に笛をおく



周りの土を寄せて
根鉢の周囲を埋める



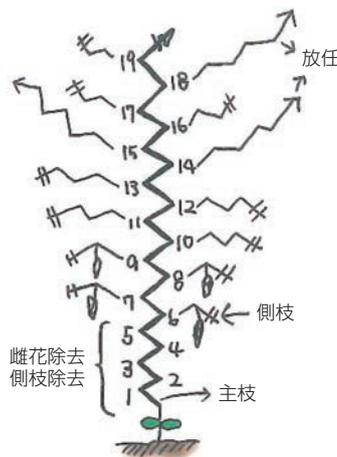
仮支柱
(30cm)

軽く
縛る

- 2条植え：畝幅150cm
- 株間：60cm
- 本葉3~4枚の苗を植える。
- 風の強い日の午前中に定植位置をやや高くして植え付ける。

整枝

- 主枝5節までの側枝、雌花は除去する。
- 主枝6節以降から出る側枝は1~2節で摘芯するが、2~3本の側枝は伸ばしておく。
- 主枝は支柱の高さで摘芯する。



主枝の6節目以降から出る側枝は1~2節で摘芯するが、主枝摘芯時、2~3本の側枝は放任しておく。

追肥・敷きわら

- 収穫開始前から10日ごとに追肥する。(追肥の量：それぞれ野菜専用肥料5kg/a)
- 敷きわらは梅雨明け頃から厚く敷く。

防除

病虫害	耕種的防除	薬剤防除
つる枯病	連作を避ける	トップジンM水和剤 1,500~2,000倍 収穫前日まで 5回以内
べと病	排水を良くする	ダコニール1000 1,000倍 収穫前日まで 8回以内
ウリハムシ (ウリバエ)	光反射マルチを行う	マラソン乳剤 1,000倍 収穫前日まで 3回以内
ハダニ類	周辺雑草を防除する	ピラニカEW(毒劇物により印鑑必要) 2,000~3,000倍 収穫前日まで 1回
アブラムシ類	光反射マルチを行う	アトマイヤー 1粒剤 1~2g/株(植穴又は株元土壌混和) 定植時 1回

収穫

- 大きくしないで早目に収穫することが、樹勢を長持ちさせるポイント。

ジャガイモ

ナス科ナス属の植物ジャガイモ。煮崩れしにくいので煮込み料理に最適のメークイン。デンプン質が多くホクホクした食感の男爵。甘みと香りの良いキタアカリなど、年々種類も豊富になり品種選びの楽しみも。



作型

種いもは毎年更新する。(自家用種いもはウイルス病にかかっている場合がある) マルチ栽培すると早取りが可能となる。連作を嫌うので、ナス科(なす、トマト、ピーマン等)を2~3年作っていない場所を選ぶ。

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	品 種 名
春 植 え			△△	—		■	■						メークイン・男爵・キタアカリ

△: 植え付け ■: 収穫

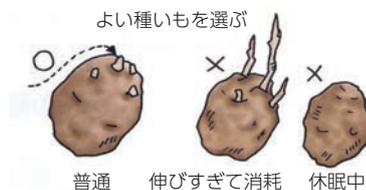
畑の準備・定植

土づくり a当たり	
堆肥	300kg
セルカ(有機石灰)	5kg
植え付け1ヶ月前に土とよく混合	
元肥 a当たり	
醗酵鶏糞	20kg
畝立時施用	

- 2条植え 畝幅100~120cm 株間30~40cm(条間40cm千鳥植え)
- 深さ10cmの溝を掘り、底に元肥を施用後、間土し、いもの切口を下に向けて植える。
- 覆土は種いもの厚さの3倍程度(5~10cm)

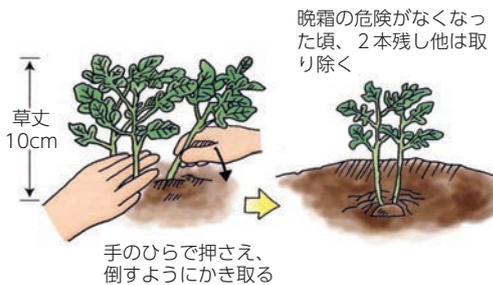
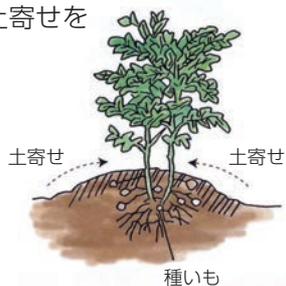
種いもの準備

30~40gの種いもを用いる。60g以上のいもは30~40gとなるよう(芽が全て均等に付くよう)に切り、陰干し乾燥させる。



間引き・追肥・土寄せ

- 草丈10cm頃: 肥大促進のために太く大きい芽を2~3本残し、野菜専用肥料4~5kg/aを施用後、土寄せを行う。
- 草丈15~30cm頃: 株元に5cmの厚さに土寄せをする。(2回程度)



防除

病虫害名	耕種防除	農薬による防除
アブラムシ類	光反射テープを畝上に張る	トレボン乳剤 1,000倍 収穫7日前まで 3回以内
テントウムシダマシ	捕殺を行う	スミチオン乳剤 1,000倍 収穫3日前まで 6回以内

収穫

- 地上部が枯れるまでいもは肥大し続ける。
- 3~4日晴天が続く、土が乾いている時に傷付けないように掘る。雨が続けているときに収穫すると、腐りやすくなります。(新しいいもは皮が弱いので、丁寧に掘り取る。)

貯蔵

収穫したら積み上げないようにして日陰で乾かす



直射日光に当たると緑化し品質を損ねる

